

こだわりの60年 その5

本日まで日常と非日常が繰り返してきて、どれが今なのかどちらに進むのがベストなのか、毎日苦吟してきたことを思い出します。

大きな転機は三度ありました。まず、1995年1月17日の阪神淡路大震災。テレビから移りあがってくるその変わり様は、日常の中に潜む非日常が突然牙をむくことを体験しました。息子が12日に生まれて、私は静岡の妻の実家に、上の子の面倒を見ながら朝テレビにその状景が移りました。

目を疑いました。その後、病院から突然呼び出しがあり、息子が心臓の心室中隔欠損症の疑いがあることを説明されました。何が起きているのか、身体が宙に浮いたまま降りてこないような感覚でした。

いつの間にか心室の穴が埋まった息子を連れて、郡山に戻り、3月20日地下鉄サリン事件がありました。その後、5月までにサリン事件によるオーム真理教の山梨の拠点の大規模捜査があり、教祖が捕らえられ、その全容が少しずつ明らかになっていくことも大きな衝撃でした。

磐城高校に異動してから、2001.9.11の出来事が、市民会館で全校を上げて、アッセンブリーの期間中に台風とともにその情報がやってきました。朝のニュースで見た国際貿易センターの状景は、まさに衝撃でした。

そして、3.11です。県庁9階の教育庁の部屋で、ロッカーが片端から倒れる中、飛んできたテレビを受け止めながら、2メートルぐらい前後左右に動いていたことを思い出します。知事公館に逃げながら津波が来たらどうするかなど話しているその後すぐに、沿岸部に津波が到達しました。相馬の松川浦大橋のすぐ下を浪が通って行くのをy o u t u b eで見ると衝撃を受けました。その後の日々は皆さんが体験したことと同じです。

そして、今回の台風19号10.12以後、また、日常はすぐに非日常になって、その時々に対応を求められ、より良い道を模索しています。

磐城高校を取り巻く今は、刻一刻と変化していきます。生徒たちもそのことを理解し、何とか準備していこうとしています。その対応力は有限なので、時には悩み、時には道を失うことがあるかと思いますが、生徒の力を信じていきます。間違いなく、彼ら彼女らは、現状を打開し、突破し、壁をよじ登り、扉をこじ開けていくはずで。

そうして、彼ら彼女らが本物の力を宿すことができたときに、次なる磐城高校の道がまた開かれるのではないかと考えています。